

東野議員。

○10番（東野恭行君）

商工会議所主催のチル・ナイト・ミーティングや、そういった若い方と接触する機会というものも、だんだん増えてきておりますし、今後もその視点で、また頑張って取り組んでいただき、糸魚川市も頑張って取り組んでいただきたい、このように思います。

以上で、私の一般質問を終了します。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問は終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を35分といたします。

〈午後1時30分 休憩〉

〈午後1時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

こんにちは。糸魚川の未来を魅せる会、伊藤 麗です。

事前に提出いたしました通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、糸魚川市の持続可能性について。

消滅可能性のある自治体からの脱却を目指す上で、必要と思われる施策は多くありますが、その中から特に以下について伺います。

(1) 若者の定住促進策について。

糸魚川市における若者の定住促進策として、現在実施している取組と、その成果について伺います。また、今後どのような新しい施策を計画しているのか伺います。

(2) 雇用創出と人口維持について。

糸魚川市における雇用機会の創出と、それによる人口維持のために、市としてどのような具体的な計画を持っているのか伺います。また、地元企業との連携や新規事業の誘致について、どのように取り組んでいるのか伺います。

(3) 食料・農業・農村の維持について。

市民一人一人の食料安全保障を柱に、具体的な計画を持っているか伺います。また、現在の取組について伺います。

(4) 行財政改革について。

自治体として存続するために、何をやめ、何を減らすかの議論も必要になってくると考えますが、その際に検討から実施までのプロセスについて、計画や指針があるか伺います。

2、地域医療構想における糸魚川市の目指すべき姿について。

糸魚川市は、都市部に比べて医療機関の数や設備が限られており、医療サービスの質やアクセスの面で地域格差が生じています。

糸魚川市の特性や市民のニーズに対応するために、救急体制も含めた地域医療のカスタマイズ化が必要と考えます。

(1) 医療機関の充実について。

糸魚川市における医療機関の現状について、市民のニーズを十分に満たしていると考えているか、また、医療機関の充実に向けた今後の計画について伺います。

(2) 救急医療体制の強化について。

糸魚川市における救急医療体制の現状はどうなっているのか、特に夜間や休日の対応について、改善の余地があると考えているか、伺います。また、救急医療体制の強化に向けた具体的な施策があるか伺います。

(3) 高齢者医療の対応について。

高齢化が進む中、糸魚川市における高齢者医療の対応状況について、市民からどのような声があるか。また、課題がある場合、どのように改善していく計画があるか伺います。

(4) 医師・看護師不足への対応について。

医師や看護師の不足が全国的に問題となっていますが、糸魚川市における医療従事者の確保状況と、その不足に対する市の対応策について伺います。

(5) 地域医療と連携する施策について。

糸魚川市が地域の医療機関や他市町村と連携して取り組んでいる施策についてと、市民を巻き込む施策について、現在の進捗状況と、今後の課題について伺います。

3、誰一人取り残されない学びの保障について。

令和6年3月に公表された文部科学省委託事業「不登校の要因分析に関する調査研究報告書」によると、「近年では、全国的に不登校、いじめ、子供の自殺などの問題が深刻化しており、特に不登校については、過去5年間の傾向として、小学校・中学校ともに不登校の児童生徒数及びその割合は増加している。」とあります。

当市においての現状と取組、この先の展望を伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

市長に代わりまして、伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、新幹線通学応援事業や各種修学資金貸与などの学生向け支援のほか、市内に就職した若者を対象として、修学資金返済支援や運転免許証取得補助を行っており、多くの皆様から活用いただいております。

現在、若者の思いや考えをお聞きする事業を計画しており、新たな施策に反映してまいりたいと考えております。

2 点目につきましては、企業や関係団体と連携し、採用活動やUターン促進事業を開催するほか、DX促進やIT企業の誘致、起業・創業支援などの取組を進めております。

3 点目につきましては、今後、国が策定する食料・農業・農村基本計画に基づき、市の施策について検討してまいります。

4 点目につきましては、令和4年度から8年度までを計画期間とする、第4次行政改革大綱に基づき、効果的・効率的な行財政運営に取り組んでおります。

2 番目の 1 点目につきましては、限られた医療資源の中、病院への運営費支援や病院と地域の診療所との協力体制により、一定の医療提供体制は確保できていると捉えております。

引き続き、県と連携して地域医療構想を推進し、地域に必要な医療提供体制の維持・確保に努めてまいります。

2 点目につきましては、医師会の協力を得ながら、輪番制を維持している状況であります。

3 点目につきましては、高齢者の通院等を考慮した医療提供体制の構築について検討していく必要があると考えております。

4 点目につきましては、現在の医療提供体制の維持に必要な人材は、確保できていると捉えております。

5 点目につきましては、現在、県を中心に上越医療圏の医療関係者や行政と共に、持続可能で質の高い医療提供体制の構築を目指した議論を進めているところであります。

今後は、その推進に向けた市民への丁寧な説明に努め、早期実現を図っていく必要があると考えております。

3 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

3 番目につきましては、平成30年度から不登校の児童生徒数及びその割合は増加しております。不登校が長期化している児童生徒には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談員との相談を通して、サポートを進めております。

また、現在、学びの多様化検討委員会を立ち上げまして、一人一人の状況に応じた多様な学びの

場や対応について協議を進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

質問の順番を変えて、質問していきたいと思います。

初めに、地域医療構想についての質問から行っていきます。

7月11日に県厚生連赤字60億円超、病院再編加速化という見出しで、報道がなされました。糸魚川市において、厚生連病院とは、重要な基幹病院である糸魚川総合病院のことです。

ここまで県の示す地域医療構想は、より安全で安心して医療を受けられるように、機能集約、適正配置という話だったと記憶しているんですけども、この報道を受けて、単なる経営難、人手不足による縮小と市民に思われても仕方がないというふうに感じました。その点について、糸魚川市としてのお考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく非常に我々も厚生連からその報告を聞いて、今までそういう報告でなかったものですから、非常に驚きと、やはり対応について、非常に苦慮している部分がございます。

そのようなことで、この厚生連病院は、当市の重要な公的病院、基幹病院であるわけであり、また、県内においても非常に厚生連の果たす役割というのは、非常に地域医療の中では大きいものがございます。そのような中で今、検討、協議をする中で、何としてもやはりこの新潟県の医療を守っていく上で、厚生連を持続させていく方向にいかなくちゃいけないと思っております。当然、厚生連の自助努力も必要であるわけですが、そのような中で、今進めておる新潟県の、この地域医療デザインをしっかりと示していくことが大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市民厚生委員会協議会の中で、今の糸魚川総合病院が経営努力、すごくしてくださっているということは、説明を受けて理解したところなんですけれども、現状で、先方から具体的な支援について、こういう支援が欲しいなど、何か具体的な話はあったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に県内の11の厚生連病院全てがやはり厳しい財政改革をしなくてはいけない状況なわけですが、特に糸魚川総合病院は、事前にそういった取組をしてこられました。そういう中においては、県内の中でも、いい部類に入るんじゃないかなと思っております。

しかしながら、糸魚川総合病院だけうまくいっても、他のところが駄目だったら、やはりそれは県内全体の厚生連のマイナスというか、厚生連が駄目になるわけでございますので、当然、皆さんが頑張っていたかなきゃいけないと思っておるわけでありまして、そして、まずはそれがはっきりとして、1つの病院だけじゃなくて、県全体の厚生連としての答えが出てきて、そして自分たちはどうなるんだという、やはりそこが一番、まず大事だと思っております。まだそこまで出てない状況でございますので、関係する自治体と、そして、また県と、また連携していかなくちゃいけないというところは共通認識なんです、そこまでは達してない状態です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今の市長のご答弁をお聞きしますと、糸魚川市がどれだけ糸魚川総合病院が大切で必要だというふうを考えていて、支援をしたとしても、今、全体、県全体の厚生連の方向性によってはどうなるか分からない状況というふうに今お受けしたんですが、そのとおりでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今の現状では、そういうことであるわけでありまして。その辺が今後、明確にならない限り、次の手が打てないんじゃないかなと思っております。ですから、上越の地域医療の再編は、進めていく部分もあるわけでありまして、まずはそういった支えていく、県立病院も同じであります。県立病院も非常に毎年150億円ぐらいのマイナスになってるわけでございますので、県としても、県立病院もしっかり進めていかなくちゃいけないというのは、知事からもお話いただきました。そういったところが、しっかり今年度において明確にしながら、次の段階へ進めることと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

そんな中で、市長のほうでも財政的な支援を見据えてということになるんだと思うんですけども、国や県へ要望に行かれているかと思えます。そちらの手応えは、どうだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

花角知事におかれましては、そういった状況をご理解いただき、各市町村と足並みをそろえて対応していくという話は言っていたいておりますし、そして、県内の、これから人口減少社会の地域医療体制は取っていくという話は、受けていただいております。

国のほうといたしましても、地方の現状は理解しておるといってわけですが、こと厚生連という一つの組織体になってくると、なかなかそこだけという部分がなかなか理解できないというような違いがあるわけがあります。

しかし、厚生連病院は、どちらかという、やはり中山間地域だったり、過疎地域の最前線の医療を受け持っているところが多いわけですので、その辺の情報をしっかりとお伝えさせていただいて、ぜひとも地域から医療を消さないようにという要望をする中においては、情報は理解していただいたところがあるわけがございます。

しかし、今すぐ具体的にどうこうというのはなかなか難しいというのがございますので、それは、これから国会の中であったり、議会の中で、国会の議会の中で取り組んでもらうべきものかなと捉えているわけがあります。まずは、我々、地元の要望と地元の現状をお示しさせていただいております。これからの中でも、当然引き続き、我々は現状を訴えていくことが必要だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私も、何としてでも糸魚川総合病院は、総合病院であり続けてもらえるように支援をしていく必要があるという立場であります。

その中で、今年の5月2日に厚生連側の経営改善推進委員会が、厚生連の経営に提言を出しているんですけども、この中に、行政支援や運営主体の在り方（公設化）を積極的に検討すべきであるというふうにありました。これに関して委員会協議会の中でも、厚生連側から指定管理という言葉も出てきたと思うんですが、この部分の今の現状、市としての考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

経営改善委員会のほうから提言がなされたわけなんですけども、それを、ただ、すぐにこれからの公設民営化の検討をさせていただきますということではないというふうに考えております。検討をする必要は当然あると思いますけども、まずは厚生連、先ほど市長が答弁いたしました、厚生連自体の経営改善、自助努力を求めていく。そこから国・県の支援をいただき、さらに赤字となっている部分について、地元所在自治体である我々が、どれだけ支援していけるかということ考えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

報道では、来年度に資金が枯渇してしまうおそれがあるという文言があったと思うんですけども、ちょっと市民を安心させてほしいんですけども、それは心配ないんでしょうか。糸魚川総合病院において、来年度、急になくなってしまうという心配はないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういうことのないように今、取り組んでおる状況でございまして、今ほどの公設民営の話は、一つの考え方でございまして、いろんなやり方があるかと思っております。今の厚生連の枠の中でやるか、また、各自治体と市町村が対応すればいいのか、県がどういう形で入っていくのか、いろいろやはり上越の医療圏構想においても同じ議論をしておられるわけでございますので、ただ、絶対守っていかなくちゃいけないのは、今ある医療人材、医師とか看護師をしっかりと確保していくことが大事なわけでありまして、それだけは守っていきたいということでありまして。今、ですから厚生連の皆様方をお願いしてるのは、何としても来年の春までは現状維持をしてほしいという要望は行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

市民厚生常任委員会では、3月1日に地域医療体制について（地域医療構想における糸魚川市の目指すべき姿）を示しています。報道は、この後にあったわけなんですけれども、今現在で、このときと目指すべき姿は、大きく変わることはないのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

現時点では、大きく変わるものはないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、糸魚川総合病院の存続自体がどうなるんだろうというところだと思うんですけども、糸魚川市で維持すべき医療に、産婦人科と小児科が含まれていなかったんですね。その部分なんですけど、気になっています。私は、産婦人科、小児科も維持するべき医療に含めるべきだと思うんですけど

ども、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

こちらの資料には、具体的な診療科というのは記載しておりません。それで、記載はされていないから維持していかないということではなくて、両診療科については非常に重要な診療科だというふうに捉えておまして、引き続き、支援もしております。今後、少子化、人口減少対策は重要な課題ですので、そこの辺を踏まえまして、維持すべき医療というふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

診療科、先ほどの市長のご答弁にもありましたけれども、厚生連は比較的不採算医療を担う性質の強い公的病院に当たると思うんですね。その不採算医療に対して行政が支援をしていく必要性が、今後どんどんと大きくなっていくということは容易に予想つくわけなんですけれども、一定の部分で、総務省の、これは病院事業の地方財政措置について見ているんですけれども、公的病院に対する特別交付税措置等を比べて、公立病院に対する地方交付税の措置のほうが一定の割合で、一定のところから、そっちのほうが有利になってくる可能性があるのではないかと考えるんですが、その辺りは、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり厚生連病院の今、対応の中において公設民営という話が出てきたのも、そういったところがございます。だからといって、施設を運営してるわけですので、そういった支援策があるからといって、そのまま入れるかというのがございます。ですから、同じ県内の厚生連病院におかれましても、やはり建物が老朽化している部分があったり、また、建てたばっかのところもあったりもするもので、そういったところを考えたときには、やはり受皿となる自治体といたしましては、そう簡単に公設民営化となるかと、いろいろやはり考えなくちゃいけない部分がございます。

そういう中で、今言われてるように非常に我々、今この地域医療の構想を進める中においては、我々といたしましては、今、6市で進めておる地域医療連携推進会議においては、産科というものに対しては別に考えてくれと、これ今のやっておる事柄と、また、地域医療とは別に産科というものを捉えていかなくちゃいけないんじゃないかというような要望を県にさせていただいております。知事も、その辺については別に考えていきたいという話もいただいとる状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

少し違う質問になるんですけども、糸魚川市で充実させるべき医療という項目も、その計画に示されているんですけども、糸魚川総合病院のかかりつけ医機能というふうに書かれていました。去年から、初診時特定療養費といって、病院と診療所の連携を図って、地域の医療を推進するために国が新しく制度をつくっています。なので、ほかの医療機関から紹介状なしに糸魚川総合病院を受診しようとする、初診料がかかってしまうというふうになってるんですが、200床以上の病院でこういうふうになるというふうに書かれておまして、今、糸魚川総合病院200床以下になったと記憶しているんですが、これはもう要らないので、かかりつけ医の機能を強化してくという理解でいいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

この初診時特定療養費という制度は、昨年の、たしか7月から糸魚川総合病院のほうでも頂くようになっていたかと思っております。この4月から、261床から199床へダウンサイジングをいたしまして、こちらの特別料金はかからないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

この3月時点に示していただいた糸魚川の医療の目指すべき姿について、この資料を、私、市民の皆さんに示すというか、何かお示しするような時間が必要だと思うんですが、それについてお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

こちらの資料は、上越の地域医療構想とは別に、身近な糸魚川市の関係者で議論をさせていただいて、取りまとめたものでございます。ですので、市民の皆様はどういった形でお伝えしていけばいいかというところを、また庁内でも協議させていただいて、検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、皆さん医療に関してすごく不安をお持ちでいらっしゃると思うので、できるだけ早く、できるだけ安心していただける形で示すべきだと思います。

(2) 救急医療体制の強化についてなんですけれども、1回目の答弁に対してちょっと確認させていただきたいんですが、2次救急までは、これからも上越圏域の人的なリソースを分けていただきながら糸魚川総合病院で受けられるように、地域医療構想会議で糸魚川市からは要望というか、していく。実現していくという方向性ということで理解、合っているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

上越圏域の中でも、糸魚川市のこの地理的な特殊性というのはご理解いただいております。県の福祉保健部においても、糸魚川市のこの地理的の事情はご存じでありまして、そういった意味では、ある程度の救急医療は確実に確保されるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

通院、計画されていた手術を受けるなどの医療は、現状の高度医療は上越で受けるという構想で問題ないと思うんですけれども、3次救急となった場合の物理的な移動距離、移動時間を担う救急隊に求められてくる役割とスキルは何か、また、その準備はあるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

上越への救急搬送ということを想定いたしまして、救急件数は当然増加していきますので、救急隊の強化といったところは、以前からお知らせしたとおりです。そんな中で、やはり上越への市外搬送といいますか、上越を含めた、富山県も含めた市外搬送も増加しておりますし、また、そのようところで救急隊、搬送時間のほうも増えているといった実情もあります。そんな中で今できる最大限の救急搬送について検討し、実施していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今もう実際に増えてきているということですね、上越とか、富山に行くケースもあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

主に上越のほうが多いんですが、当然、富山、黒部市民病院ですとか、あと富山大学病院、そういったところへの搬送もございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

救急に関しては、消防の部分に関しては、もう完全に糸魚川市の責任の中で運営していく部門になると思うんですけども、今もう実際にそういう市外、長距離の搬送が増えているという中で、糸魚川市としてこれからどのように、その救急搬送、搬送する救急の皆さんのスキルの向上であったりだとか、後は人数も増やしていく必要性が出てくるのだと思うんですけども、その部分の、備えているかどうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

5隊増やしたときに、次の段階というのは先の話かなと思っていたんですが、このような医療の状況を考えると、次の一手を今のうちから考えておかなければいけない。それが職員の増員になるのかということは、ちょっと私の口からは答弁できませんが、いずれにいたしましても、次の手を早急に打って、次の体制を考えていかなければいけないなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

市外への搬送で、市内の救急搬送がうまくいかないという状況は、やっぱりつくってはいけないというふうに思っています。そういったことを想定しながら、現在、消防本部は93人という定数で運用しておりますけども、場合によっては、そういった増員もしっかり検討しなければならないことについては、私から消防長のほうにも話をしてありまして、今から検討しているといった状況でございます。

ただ、それが現状の隊で間に合う見通しがつけば、そのままになるかもしれませんが、それがか

なわないということであれば、増員の対応もしっかり検討するというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

では、（3）の高齢者医療の対応について伺います。

地域を歩きますと、バスで病院まで行くのに乗換えが必要で不便だという声を多く耳にいたします。今年度、公共交通の計画策定年度だったと思うんですけれども、市民の足としての公共交通網の検討は、進んでいるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

議員おっしゃるとおり、今年度、公共交通計画の策定ということで、私ども、基本的には通学と通院の足は基本的に守るといったところで計画を組んでおります。

ただ、地形的要因で、どうしても谷からずっと糸魚川総合病院まで1本でいけるとというのが理想なんですけれどもどうしても、その集約を図って、ハブのところで乗り換えていただくという必要、これは運転手の不足ですとか運転手の負担の関係で以前から、以前はずっと1本で行けていたんですけれども、そこは切替をさせていただいて、乗換えをしていただくといった方向の形に変えてきております。できるだけ乗換えの負担が少なくなるような時間の調整ですとか、そういったところは、引き続き取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

現状のところは、確認にとどめたいと思います。

（4）、すいません、飛ばさせていただいて、（5）の部分です。

地域医療というところなんですけれども、地域医療は、地域のニーズに合わせた形で住民のために提供される日常的な医療活動全般のことを指すというふうに理解をしているんですけれども、そこで、重要な役割を担うかかりつけ医について、特に能生地域と青海地域については、持続可能性の点で不安が大きいと考えるんですけれども、この部分をどのように捉えているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

青海地域、能生地域におきましては、開業されている医師の方が、相次いで閉院をされている現状があると思います。そういったことから、糸魚川総合病院のかかりつけ医機能というのがすご

く重要になってまいりますので、先ほど来、お話の出ている糸魚川のあるべき姿の中で、糸魚川総合病院に残すべき機能、維持されるべき機能のところ、かかりつけ医機能というふうに記させていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

地域医療の問題についてもなんですけれども、質問の番号1の糸魚川市の持続可能性について、大きく関わる重要な項目と捉えています。不採算医療について、行政が補填してでも存続を目指す必要があるという立場からすれば、今後、地域医療を確保するための財源の確保も喫緊の課題となってくると考えます。

そこで、続けて質問番号1の（4）から伺ってまいりたいと思います。

行財政改革についてなんですけれども、行財政改革というふうに聞きますと、目先に計画している施設や事業についての可否の議論になりがちなところもあると思うんですけれども、300あまりある市内の公の施設全体で、中長期的な視点に立って考える必要性も忘れてはならないと考えています。財政の健全化を図る指標である将来負担比率と財政調整基金で比較すると、令和4年度よりも令和5年度は、若干の改善が見られたと思うんですけれども、その理由と機能の統合、民間委託など、地道に、着実に行う必要がある事柄について、これまで実施できたもの、また、これからの糸魚川市全体でのグランドデザインを全庁挙げて示していくための動きが必要と考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

まず、財政調整基金につきましては、こちらのほうは令和4年度と5年度の、実際には、令和5年度当初予算で取り崩していた4億2,000万円の基金を年度末に復元できたという状況でございます。

また、将来負担比率につきましては、将来負担額として見ている地方債残高、こちらのほうが、令和4年度と対比しますと約29億円の減となったということが主な要因でありまして、こちらのほう、償還が順調に進んでいるということでもあります。

あと、これまでの地道な動き、行政改革につきましては、止まることなく毎年、毎年度継続しているわけですが、現在、令和4年度から始まっている第4次行政改革の大綱の中で12の推進項目がございます。その中で、既に2項目につきましては、各課の継続分もありましたが、検討が終わっております。

1点では、図書館の窓口業務の民間委託、こちらにつきましては、図書館業務に従事した職員が、他病院に移行できた。また、令和5年度では、公営住宅の設備管理の民間委託ということで、入居者から依頼を受けてから修繕完了までのスピードアップ化が図られたというようなことで、事務の

効率化であったり業務の改善、職員の動きが自由度が増したというような形で成果として表れているものと思います。ほかの項目につきましても、今後、継続してまいりたいというふうに思っております。

また、公共施設の関係でございますが、こちらのほう、私どもとしましては公共施設の見直しにつきましても、今後さらに進めていかなければいけないというふうに考えております。その中では、公共施設の適正化は、市域全域で、全体で俯瞰をしながら行うということが必要であります。

ただ、その中では、先ほど来、ご質問もありましたが、公共交通であったり立地適正化であったりという、いわゆる点と点を結ぶ線というところも意識をしながら進めていくことが必要だというふうに考えております。

そういったものをまとめて分かりやすくできないかということ、私どものほうでも考えていきたいというふうに考えておりますので、今後とも積極的に進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

点と点を結んだランドデザインなるものを、ぜひその検討に入るというところの始めるというところからスタートしていただければと思っております。

そして、行政改革というふうに言いますと、痛みを伴う改革ばかりがイメージされがちですが、行政サービスの効率化、品質の向上を図るために行っていること、これも行政改革だと思います。何かありますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

今ほどのご質問につきましては、先ほども申し上げたとおり、やはり窓口業務であったり市民サービスの利便性を図るというようなところを行っております。特に、ここで申し上げることがなくても、各課、所管課においては、それぞれ窓口サービスであったり事務事業の中で見直しを進めていくということ、恒常的に見直しを行っているということでございますので、そのような形で今後も取り組んでいきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

行政の効率化ということだけじゃなくて、市民サービスの向上につながるような行政改革というか、そういった事例としましては、直近では、放課後児童クラブを直営から民間のほうへ出させていただきました。その利用状況を見る中で、アンケート調査等を実施しましたところ、満足度が非

常に高まっているということでございます。

そういったことで、民間の皆さんから、さらにサービスの向上に努めていただいた、よい例だというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

うまくいっている事例もお聞きすることができて、よかったです。

それでは、一番最初の（1）から順番に質問してまいりたいと思います。

総務文教常任委員会では、8月23日に定住人口拡大施策について、柏崎市へ行政施設に行つてまいりました。消滅可能性自治体に該当しなくなった要因及び今後の見通しについて、その要因を特定することは困難と考えている。むしろ状況は大きく変わっていないという捉えである。決して楽観できる状況ではないとの説明がありました。各種施策についても伺ってきたんですけども、糸魚川市と比較してみると、子育て支援は、ちょっと柏崎市さんが先に行つてらっしゃるのかなという感じはしたんですけども、若者・女性への支援に関しては、糸魚川市も決して負けていないなというふうに、逆に糸魚川市の負けていないところ、いいところも見えてくる、そういう意味でも有意義な視察になったと思っております。

ただ、ほかの部分ですね、人口減少対策における現状分析や企業の育成誘致の部分では、柏崎市から学ぶことが多くあるなというふうに感じております。6月27日の委員会で当市の人口減少対策プロジェクトが示したデータ、事務報告書などに基づいて、2回目の質問を行つてまいりたいと思います。

（1）についてです。移住定住促進支援制度を利用したUIターンの人数は、令和4年度では合計52人だったのに対し、令和5年度では64人というふうに増えております。支援制度を利用する人が増えたということは、当市における移住者も増えたという理解でいいのか、本年度はどうなりそうか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えをいたします。

令和3年度につきましては36人といったことで、過去3年を見ましても増加傾向にあるといったところは言えるかと思っております。令和4年度につきましてはコロナ禍もありまして、4月から8月までが住民基本台帳上の人口動態では、転入超過でございました。しかしながら、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、東京一極集中に戻ったということもあって、残念ながら転出に戻ったと。しかしながら、また今度、令和6年度、ここ4月から8月まで、また若干ではありますが、転入超過の数字になってきております。傾向としては、そのようなことで、今年度の制度利用者も若干増加傾向にあるかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

いいことですね、増えてきてるということで。コロナの影響があつて、糸魚川に入ってきてる方が増えたかなというところで。ただ、今年度も今のところは増加傾向ということであれば非常によいのではないかなというふうに思いました。

複数制度利用者について、ちょっとお伺いしたいんですが、「△26」という数字が事務報告書に載っているんです。減ってるのかなというふうに思ったんですが、原因は、何か周知方法や制度設計が実態と合わなくなってきたということはないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

事務報告書の支援制度を利用した移住者の状況の欄で複数制度利用者ということで、「△26」人という記載がございます。こちらは、移住制度を、事業名を並べている中で幾つかの事業を使った方を差し引いて、実数の移住者数をカウントするために「△26」といった形で示しているものとなっております。

したがって、複数制度、利用者が多い、この三角の数字が多いということは、幾つかの制度を使って移住された方がいらっしゃるというふうなご理解をいただければと思っておりますし、一応、必要な制度といった形で利用いただいているものというふうには理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

すいません、この複数制度利用者の見方、理解できました。ありがとうございます。

今26人ということで、26の方が幾つもの制度をご利用になられたということですよ。前の年とかちょっと私、確認しなかったんですが、今もし分かれば教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

令和4年度につきましては、複数制度利用者は6名でありました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）



伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

ということは、20名増えたということで、制度の理解というか周知がなっていないんじゃないかなというふうに心配したんですけれども、そうではなかったということが今分かりましたので、結構です。

女性のUターン促進に向けた支援メニューの検討について聞きたいんですが、具体的に検討されていることはあるか、また効果的に促進させるには、その予備軍、Uターン、Iターンの予備軍の人たちの人物像を想定する必要があると思うんですけれども、何か把握していらっしゃるか。設定、そういう何ていうんでしょう、ペルソナっていうんですかね、設定されているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほど女性のUターン促進に向けた支援メニューということですと、チル・ナイト・ミーティングというのも東京、今年は新潟でも開催を予定しております。そういった方々への聞き取りができないかといったことも考えておまして、そういった方々から意見を聞くことで、何らかUターンのきっかけを探ることができないかというところ、また、先ほど来、話あります若者の懇談といったところですか、また、市内の企業さん、働く場の確保、就労環境の整備といったところにつきましても、市内の企業さんから意見を聞くことができないかといったことを今現在検討しているところであります。

それで、予備軍のペルソナ、人物像ということかと思うんですが、まだそこまでは具体的には考えておりませんが、ぼんやり描いているところでは、やはり進学のため糸魚川市を離れる。その後、東京、首都圏で就職をされる。その後、疲れるといいますか、地方移住の、また気持ちも芽生えてくる。ふるさとに戻りたいという気持ちも芽生えてくるといった、20代後半から30代の方々に向けて何らかPRをしていくというイメージは持っております。そういったところに、糸魚川暮らしのよさであったり、ふるさとを懐かしむところを、また、チル・ナイト・ミーティングといった機会などを通じてお伝えしていければいいのかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

チル・ナイト・ミーティングでぜひ聞いてみてください。

私もちょっと自分なりに考えてみたんですけど、今課長がおっしゃいましたように、都会の暮らしにストレスを感じてるだとか、あと子育てにふさわしい環境を求めているとか、後は新天地で仕事してみたいとか、あと私がそうだったんですけど実家に戻りたい人とか、あとワーク・ライフ・バランスを大切にしたい人とか、その辺りかなというふうに自分は思ったんですけど、どういう動機で、先ほどの東野議員の質問にもつながるのかもしれないんですけど、どういう動機で糸魚川に来たいのか、来ようかなって思ってるかというところの掘り下げをぜひやっていただきたいな

というふうに思いました。

続けてお伺いしたいんですが、若者の思いや考えを聞く事業に、市長も出席することになっているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

若者から考えを聞く会議の場では、現在のところの市長の出席は予定はしておりません。本当に意見交換、意見を自由に述べていただく場ということで、市長がいたら述べられないということではないですけれども、まずはそういう環境も整えながら自由に意見をできる場を設けて、2回目以降の開催も考えたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

前回一般質問で、私、市長にそういう機会があればご出席いただけるのかと聞いたら、ぜひというふうにおっしゃったものですから伺ったんですが、せっかく若者が集まってくれるのであれば、単なるおしゃべりじゃもったいないと思うんですよね。できればやっぱり、これも前回申し上げたんですが、政策提言までやってもらえるような運びに何とか結びつけていただくことはできないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

あまり最終的にプレッシャーをかけるといいますか、そこまでのつもりはないんですけれども、そうなればいいなと、政策提言までいただければいいなという思いは持っております。

ただ、それをまた、例えば最終的にプレゼンであったりご報告だったりという場には、やはり市長なり理事者なりに報告をいただく場面というのはあったらいいのかなというのは、今お話を聞いてて思ったところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それも含めて集まってもらった若い方たちに聞いてみるといいかもしれないですね。皆さんには、ぜひ政策提言したい、これを行政に言いたいというのがあれば、ぜひやっていただければいいと思うので、また、その辺りは対話をしていただければと思います。

（2）に移らせていただきます。

柏崎市では、エネルギーのまちを押し出し、関連する企業の誘致、地域エネルギー会社の設立をしていました。当市において、近年での企業誘致成功事例はDONUTS社であり、市内の女性・若者の働き方に選択肢をプラスしたと言えると思っております。関連して、市内にスタートアップの拠点づくりなどの動きが出てきているようにも聞いておりますが、行政としての感触はいかがでしょうか。こういった動きを後押しするに当たり、行政が行っている支援を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

私どもの感触といたしましては、通常の創業につきましては、創成塾の継続により、かなり浸透してきてるのではないかなというふうに思っております。

しかしながら、スタートアップと呼ばれるような新しいビジネスモデルとなるような企業につきましては、まだまだ、残念ながら当地域では浸透していないのではないかなというふうに感じております。

これらを踏まえまして、今年度からは、学生のスタートアップを応援する事業に取り組んでもおりますし、市内には、ご存じのようにキターレやクラブハウス美山のような、スタートアップ拠点となるような施設もございますので、今後、積極的に、引き続き活用していただければなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

学生の創業支援、すごくいいと思います。応援して、どんどん若い学生の方にも事業にチャレンジしていただきたいなと思います。

それで、DONUTS社に関して、なぜ私が言ったかということ、女性の働く場所づくりにすごく貢献してくださってるのではないかなというふうに思っていて、同様の職種が、これをきっかけに、市内に少しでも増えてくるといいなというふうに思うんですが、そういう動き、そういう部門に対しての誘致活動などは、されていないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご質問のとおり、DONUTS社につきましては、私ら企業支援といたしまして、t h r e e a dという場所をつくりまして、そちらで研修された方が就職されている場所でございます。そのt h r e e a dの活動の中で、都市部におけるIT企業の企業誘致のほうも、私らと一緒にっておりますので、そういった動きは、少しずつではございますが、広がっておるのではないかなと思

っております。

実績といたしまして、そういったIT企業が市内に事務所を構えて、市内の若いお母様方を採用したという事例もございますので、今後も引き続き、そのような取組に努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

承知しました。

（3）について伺ってまいります。

食料・農業・農村基本法が、今年度改正されました。改正のポイントを、すいません、課長、ご説明いただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

基本法の見直しの最大の目的というのは、食料安全保障の確保・強化だというふうに考えております。それ以外といたしましては、食料システムの確立ですとか、人口減少下での農業生産の方向性、農村コミュニティの維持などが明確化されたことが大きなポイントであるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

糸魚川市では、みんなで考える集落農業座談会が7月17日から7月30日の間、市内11か所で行われました。糸魚川市のホームページでその事業の案内を見ますと、糸魚川のおいしいお米は、これから先もおなかいっぱい食べられるの、田んぼのカエルの大合唱は10年後にも聞こえるのという、将来の地域農業の姿をみんなで考えてみませんかという投げかけがありました。

このたびのお米の品薄を受けて、まさに糸魚川のおいしいお米は、これから先もおなかいっぱい食べられるのかというところに、私は不安にさせられた市民の一人です。個人農家さんは、既に稲刈りを行っていらっしゃる方もいて、割と生産側の皆さんは、それほど何ていうんでしょう、怖がってもないというふうにも聞いているんですけども、消費者側からすれば、南海トラフによる備蓄行動によったもので、幾ら一時的なものだったとしても不安を感じる出来事だったと思っております。個人的なお話で恐縮ですが、私、本当にお米が大好きで、糸魚川産のコシヒカリや新之助を食べることにこだわりを持っているんですけども、今回スーパーで、千葉県産の新米を私も買いました。

また、12月からサトウのご飯も値上がりするという報道を目にしまして、この改正後の基本理念にある食料システム関係者により、食料の持続的な供給に要する合理的な費用は、考慮されるようにしなければならないというところに、糸魚川市としてどのように対応していくのかなというのを率直に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今、国が考えております食料システムは、いわゆる生産者から消費者へお米が届く間には、やはり小売ですとか卸、また加工、あらゆる産業分野を通過して、消費者のほうへ届いておりますけども、今なかなか燃油ですとか肥料等の高騰が続いている中、農業生産物につきましては価格転嫁が厳しいような状況続いております。国では、そうした農家は一定程度のかかった費用を価格へ転嫁して、引き続き農業・農村を維持していかなければならないという考えの下でシステムを構築していこうというふうに考えております。

糸魚川市といたしましても、これから基本計画が見直しされてまいりますので、国の動向等を見ながらになりますが、引き続き中山間地農業の維持・発展ですとか、やはり付加価値の高い、稼げる農業をどのように持っていくか、基盤整備ですとか圃場整備、農道、用排水路の整備等の基盤整備をして、コスト縮減ですとか働きやすい環境づくりというものは、市のほうとしては目指していかなきゃならないのかなというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

もしかすると、生産者の皆さんにとっては、出回る米が少なくなったほうが、買取り価格が高くなる。だから、いい面もあつたりするのかなとは思うんですけども、そのバランスがすごく難しい問題だというのは、今のご答弁で理解することができました。

もう一つ伺いたいんですが、食料・農業・農村基本法の4本柱の一つであります農業の有する多面的機能の発揮に関わる交付金申請のために計画をつくらなければいけないというところで、今回の座談会が行われたのかなというふうに理解しているんですけども、その計画の中に、当然、この座談会で出た意見を反映するものと考えますが、どのような意見があつたのか伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今回の座談会は、基本法の改正はもちろんですが、10年後の農地を誰がどのように耕作していくかという地域計画というものを今つくっております。そうした地域計画への反映という部分も必要であるということから、今回、農業者だけではなく、広くPTAですとか地区の役員さん、いわゆる農業に直接携わっていない方々からもご参加いただいて、座談会をさせていただきました。その中で、やはり機械の共同利用ですとか、スマート農業の導入、圃場や農道等の基盤整備の促進など、ハードなご意見もございましたが、一方、やはり若者に農業の魅力を伝える、地産地消、子供たちに農業体験など、ソフト面で、農業に関心を持ってもらえるような、そうした施策も必要ではないか、活動が必要ではないかというような意見もたくさんいただいたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

皆さんのお声が計画となって出てくるのを楽しみにしています。農業を、やっぱり糸魚川市全体として応援していく必要があるなというふうに感じておりますので、ぜひ皆さんの率直な意見が反映されたような計画にさせていただきたいと思っております。

それでは、質問の番号3、誰一人取り残されない学びの保障についてお伺いいたします。

不登校児童の増加による懸念事項は幾つかあると思っておりますけれども、私は、以下の3つについてお話ししたいと思います。

1つ目に、社会的な孤独感の増加。2、学習機会の創出。3、心理的な健康への影響。個々のお子さん、児童の状況によって、様々な要素が関わるとは思うんですけれども、だからこそ、対応策や支援システムの充実が重要と考えますが、文部科学省は、去年、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策、COCOLOプランを教育現場に周知しているかと思っております。不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境について、学びの多様化検討委員会が、当市では設置されたと思うんですけれども、現在どのような検討を行っているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小川こども教育課参事。〔教育委員会こども教育課参事 小川豊雄君登壇〕

○教育委員会こども教育課参事（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

学びの多様化検討委員会につきましては、これまで当市の不登校児童生徒の実態と現状について、また、学びの多様化について、それから市内の適応指導教室への現状ですとか、通信制の高等学校の現状について、それから、この多様化検討委員会が設置されるまでに行いました視察の報告、それから、文部科学省の、今ほどお話に出てきましたCOCOLOプラン等についての内容の学習会等を行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

COCOLOプランの勉強会も行ってらっしゃるということであれば、質問、ぴったり、通じるなというふうに思って安心しました。

次の質問なんですが、心の小さなSOSを見逃さず、チーム学校での支援について、糸魚川市の取組状況についてお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小川こども教育課参事。〔教育委員会こども教育課参事 小川豊雄君登壇〕

○教育委員会こども教育課参事（小川豊雄君）

お答えいたします。

心の小さなSOSを見逃さず、チーム学校での支援ということなんですけれども、もちろん担任の先生等が子供たちの様子を見取って行うというようなことも行っているんですが、それ以外にも、健康観察アプリケーションを使ってその日の心の状態等を聞くですとか、そういったような取組を行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

チーム学校での取組が、健康観察アプリだとちょっと弱いなというふうに感じたんですが、何か1人の担任の先生が1つの学級をもうずっと責任を持って見ているというのではなくて、学級の担当という形で、みんなで見ていくような取組だったり、市内では、まだないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

チーム学校づくりということなんです、市内の学校はもう文部科学省のCOCOLOプラン、その内容の趣旨を受けまして、大規模、中規模、小規模が、それぞれ学校規模に応じますけれども、学級担任だけが1人で抱えるという体制は、もう脱しようぞというようなことで、管理職も含めて、養護教諭、教育補助員さんというふうな方々、要するに子供たちに関わるスタッフが、チームをそれぞれ組みまして、どの学年にはこの人とこの人とこの人、この人が休んだ場合にはこの人が入るというふうな部分の複数体制というふうな部分のところを市内の学校は今取っております。

ただ、どうしても年休取ったりなんかして、たまたま欠ける場合もあるんですけども、そういった場合については管理職が積極的に関わって、フォロー体制のほうを進めているというふうに、今回の学校訪問等を通して、そこら辺りも私どもは聞いてまいりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

学校の風土の見える化を通して、みんなが安心して学べる場所づくりについて、現状の取組について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小川こども教育課参事。〔教育委員会こども教育課参事 小川豊雄君登壇〕

○教育委員会こども教育課参事（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

学校の風土の見える化ということなんですけれども、やはりみんなが安心して学べる学校、場所づくりということになりますと、やはり学校ですと、学級というのが一番大事になってくるかと思えます。

そこで、市では学級づくり研修会等を年2回行いまして、子供たちが安心して生活できる学級づくりを先生方に学んでいただいております。

また、学校で安心して生活できるためのもう一つの基盤としましては、やはり勉強が分かるということがとても大事なというふうに考えております。そちらのほうにつきましても、様々な研修会を行いまして、先生たちの指導力の向上に努めておるところでございます。

また、開かれた学校ということで、コミュニティスクールの方ですとか、あるいは地域の方からたくさん学校に入っていただきまして、子供たちの様子を見てもらいながら地域全体で学校でやることがよく分かってもらえるような活動をそれぞれの学校で工夫してやっているかと思えますので、そういった中で、学校の風土が見える化ということを進めているかと思えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

どうもありがとうございました。

最後に、教育長から、糸魚川市内の学びの保障について、お考えを述べていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

ご質問にお答えいたします。

教育の機会を全ての子供たちに与えるために、今、私たちに何ができるかという大きな課題提示



だろうと私は捉えています。文部科学省からのCOCOLOプランにもあったように、やはり今現在できる対応について、スピード感を持って、できるところから即行動開始というふうな部分のところを大事に尊重しております。具体的には、オンラインというような形の効果が、大分発揮されていますし、コロナ禍によって、ここら辺りはかなり自由に使えるようになってまいりました。

したがって、不登校の児童生徒におかれましても、本人が望むというふうな部分が少しでも見えたときに、このオンラインで誰か彼かをつなぐというような部分のところを尊重して、今現在進めています。

それから、校内教育支援センター、スクールサポートルームというんですけども、これは、郊外だと適応指導教室みたいな形になるんですけど、そんなふうに教室じゃないんだけど、校内に自分の居心地のいい場所というふうな場所を、環境づくりを設定しまして、そこら辺りのところのルームを有効に使ってもらおうということで、市内の中学校4中学校では、その環境が整っております。それから、県からの協力も得まして、モデル校として市内の小学校1校なんですけれども、小学校での取組等も試行的に、もう積極的に始まっています。

それらの取組を通して、校内のサポートルームみたいなものが、どんなふうに機能しているのか。校外の適応教室もあるんだけど、校内で子供たちが少しでも居場所として喜んで少しでも過ごせるというような環境づくりはどうあるべきなのかという部分についても模索して、今現在進めております。

それから、先ほど小川参事も話しましたように、心の健康観察というふうな部分が非常に大事だというふうな部分で、研究成果も出ています。これは上越教育大学の先生方がチームになって、県内で今取り組んでいるんですけども、その制度にも、糸魚川市は乗っかっております。不登校で心が悩んだりいろいろこうしたときに、自分の思いや願いみたいなものがなかなか表出できない、言葉にできないというふうな部分は、やっぱりこのタブレットの簡単な調査、アプリのものによって、返事を出すことによって、いち早くキャッチするというふうな部分で、キャッチした場合には、すぐ対応していくというふうな部分のシステム化は可能になっていきますので、それを有効に使って、これからどんなふうな形で効果が出るのか、検証も含めて進めてまいりたいというふうに思っております。それが、今現在、特に力を入れている対応の一つです。

そのもう一つの一方に、どういう学びの環境が必要なのかということも、検討委員会を立ち上げて、今研究しておりますけれども、その一つに、学びの多様化学校というふうなプランも上がってきています。これが、果たして糸魚川市に合うのか、合わないのか。今の適応指導教室の校内外で何とかできるのか、できないのか。学びたくても学校に行けない生徒たちが、学びたいというふうな気持ちを持っている子供に対しては、やっぱり学べるような環境をつくらなければいけないというふうなことも、環境づくりは大事な要素になってくると思うんです。そんな場合に、糸魚川市にマッチした、そういった環境になるのか、ならないのか。どういうふうな方向で進めていけばいいのかってことも情報収集しながら、委員の皆さんと検討を重ねながら、今現在、模索してるというのが現状でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

不登校の長期化になりますと、友情の築き方やコミュニケーションの取り方が分からないだとか、後は学力や将来のキャリアに影響を及ぼす可能性があったりだとか、自尊心や自己肯定感が低下するということが考えられると思うので、その学びの多様化、学びの保障について、引き続き検討で、できるだけ早急に実装していただければなというふうに思います。

質問は以上です。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を3時5分といたします。

〈午後2時54分 休憩〉

〈午後3時05分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、国県に対する緊急政策提案について。

(1) 地方医療機関への財政支援と構造改革への支援について。

① 市として厚生連糸魚川総合病院の経営分析をしているか。

② 市内の開業医の年代や後継者について把握をしているか。

③ 地方における医師の偏在対策として、医師の準国家公務員化を勧め、一定期間は地方赴任を行う制度の導入を提案する考えはあるか。

(2) 地方鉄道の準国鉄化について。

① 観光立国を目指す国の役割として、鉄道本来の目的と強みの再認識を促し、オーバーツーリズムの解消や南海トラフ地震を踏まえた緊急輸送体制の確保のため、鉄道の分断は避けるべきである。ローカル線を持つ自治体と連携して準国鉄化を国に要求する考えはあるか。

② 鉄道と一般道路と高速道路において、脱炭素化の視点から一定の割合を財源共有することを提案する考えはあるか。